

2020年11月

2020年12月10日発行

# NPO 法人 わっか

## 月次報告書

# 24



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が  
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わかっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。

# 第二十四号

## 目次



放課後児童クラブ さかつこクラブ

4

あいまいな世界を分断するもの 佐藤真紀

5

お弁当・おかずづくりを通じて あすか

6

### 事業報告

月ようわっか

7

平日わっか

8

かめラボ

9

日ようわっか

10

十一月にいただいたご寄付

11

編集後記

13

14

# 放課後児童クラブ さかっこクラブ

## 柳生のび



さかっこクラブのミッションは「期待しない保育」を実現することです。

期待しないと言うと、とても後ろ向きでマイナスイメー  
ジをもつ人も少なくないと思いますが、期待しないって、  
とっても大事で大切な意味があるんです。そもそも期待  
するってどういうことでしょうか。期待ってどこから生  
まれるかって考えると、期待されているその子から生ま  
れてくるものではなくて、その子をその様に期待してい  
る大人から生まれるものなんです。

それは、期待の中に見ている人の価値観やいわゆる主観  
が含まれている可能性が高いということです。そうなる  
と、期待されているその子がその期待通りになる必要っ  
て実はないんです。だって、そうなってほしいのは、そ  
の様に期待している大人であって、その子どもがそうな  
りたいと思っているかは別問題なのです。あくまで、人  
生は子ども自身のモノであって、大人が決めたついたり、  
押し付けたりするものではないのです。だから、その目  
の前の子どもに期待を寄せること自体が間違っているの  
です。

どう生きるも、その子たちの自由なのです。まだ、大  
人のようにできないことはあっても、子どもは生まれ出  
たところから、すでに一人の人間であり、はつきりと存  
在しているのです。そこに年齢も性別も経験もありません。  
あるのは人としての生命の尊厳だけなのです。だけ  
ど、子どもの人生は大人によって簡単にねじ曲げられて  
しまいます。だからこそ、私達大人は子どもの人生を保  
障する義務があると思います。彼らが自らの人生を謳歌  
できるように支えることは必要になってくるでしょう。  
だけど、そこに上も下もありません。経験値の差で子ど  
もが劣っていることにもなりません。私達大人は、子ど  
も達が自分らしくあることができるように最大限のサ  
ポートをし続けることしかできないのです。

期待はせず、でも、その子が自分らしくいられるように  
関わりながら、子ども達一人一人が人生の選択をしてい  
くのを見守り続けること、それは子どもが育つ最高の場  
をつくることにつながっているのだろうと信じていま  
す

期待はしない、でも、彼らを信じています。ボクらは  
子ども達がどんな人間に成長していくのか、いつも楽し  
みにしています。成長がみられるだけで、本当に素晴ら  
しいことなのだと言改めて感じています。

# あいまいな世界を

## 分断するもの

佐藤真紀

制度や行政に関わっていると、ときに制度で人は分断されてしまっていると感じる。例えば、児童手当は中学卒業までで終わり、児童扶養手当は実質的なひとり親に限られるなどだ。人はそういった制度を活用して生活をしているのかもしれないが、制度そのものでは生活をしていない。

人というものはもつとあいまいなものだ。たとえば、私はハンディキツャブを抱えているが、すべてのことがハンディキツャブをもっていない人と同様にできることはないが、同じようにできるときもある。また、ハンディがある、ないに関わらず私にできることができなない人もいるし、その逆もしかりだろうと思う。人と人はある区切りでハンディがあるないとはつきり区分けされるのではなく、そうしたでこぼことしてあいまいな境界で生活をしているものなのだ。

これは個人という個に焦点化するだけでなく、人と人との関係、つまり社会関係においても同じことが言える。人は生涯変化し続けるもので、ずっと同じところで留まることはでない。加齢であったり、社会環境の変化であったり、住む場所であったり。そうした中で、自分と他者との関係という部分においても、ときには近くなったり、ときには遠くなったり、またぶつんと切れたり、つながったりとしていくもので、その関係はずっと同じ「友人」という言葉や、「親友」という言葉だけでは表しきれない。つまり、流れ変化しつづけ固定されてものはないあいまいなものであるのだ。

文字や言葉が発明されてから、この社会はそうした表現できる手法によって明確化され、歴史として受け継がれてきた。また、法律も成文法という形で明確に表されてきた。古くは医療から、ここ30年だとIT関係がプログラミングしないと成立しないといった点では言語化の最たるものだろう。けれども生きていくということ、言葉だけでも、文字だけでも明確に表すことができなくてこぼこしてあいまいなものなのだ。そして、同時に常に変化をし続けるものだ。

世界は決して固定されているものではなく、あいまいなものだという前提に立つと、ここから先は健常であるとか、ここから先は障害であるといった私が普段感じている苦しさも軽減するのではないだろうかと思う瞬間がある。ただし、それはある程度の状況がクリアになって自分の中で納得している今があることや、対処法が分かっているから感じることもないだろう。渦中にいるときは、助けを求める術も、苦しいと発する相手もいなかった。ただ苦しい、消えたいなのだ。

世界はあいまいであると言いなながらも、それは、差別を見たことのない人が、差別はないものだという主張をしたところで、差別を見たことが無いからといって差別がない証拠にはならないのと同じで、私が受けてきて、今も受けている苦しみが存在しないことにはならないのだ。確かに、私にとって苦しみはここに存在するし、社会の中での孤立も存在しつづけている。そうした意味においては、分断は確かに存在する。

ただ、私はそうした苦い思いを持ちながらも、それでも願うのだ。ひとつひとつが分断をされることなく、傷つけることなく、おたがいがでこぼこしていることをわかりあえますように。そして世界があなたにとっても、私にとつてやさしいもので、あいまいでやわらかなもので包まれますようにと。

やわらかく包まれるということは、本当に自分にいいことでもある。本当の意味で自分にいいことは周りの人にとつてもいい世界であり、そうした時間が多くなれば多くなるほど、この息苦しさも少なくなると私は思う。そして、そうした世界をみんなと作っていききたいと思う。

佐藤真紀さんのプロフィール @19hz (Twitter)

現場から現代社会を思考する/OfficeJUN/大学院生/ネットワークエンジニア→ソーシャルワーカー  
/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元学校の中の人

あすか  
お弁当・おかず作りを通じて。



毎週金曜のおばあちゃんお弁当＋  
若者へのおかずのお届け  
最近は魅せ弁というものが流行っ  
ているようですね。



野菜の寄付をいただいたので  
早速使わせてもらいました。



お弁当の注文をいただきました。  
売り上げは次への若者のお弁当・  
おかずのお届けにつなげます。  
ありがとうございます。



注文いただいたお弁当は「あつた  
かいお弁当だった」と言われまし  
た。若者へ届けているご飯もそう  
であれば嬉しいなと願ひ、またご  
飯を作ります。

毎週 月よう日 15:30 ～ 20:00

子ども **26** 名 ( **20** 名 ) おとな **4** 名 ( **0** 名 )

## 月ようわっか

( ) 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

**2日** 子ども **5** 名 ( **4** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー：ごはん、チキンステーキ、豆腐と油揚げの味噌汁、ポテトサラダ

**9日** 子ども **6** 名 ( **4** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー：ごはん、白菜とネギの味噌汁、サゴシの照り焼き、さつまいもとかぼちゃの煮物、小松菜のおひたし

**16日** 子ども **8** 名 ( **6** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー：ごはん、わかめと油揚げの味噌汁、れんこんとパプリカのきんぴら、タラのスパイス焼き

**23日** おやすみ

**30日** 子ども **7** 名 ( **6** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー：ごはん、白菜と豚肉の煮浸し、さつま揚げ、ほうれん草の味噌汁



## 平日わっか

毎週火～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月요일と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



下校中の小学生。

もともと親子で、冒険遊び場や、日曜日のわっかにきてくれていました。兄弟で思いっきり遊び姿が印象的で、わっかの自由な雰囲気自分たちで表してくれる、そんな子です。

しばらくすると、月曜日のわっかにも子供だけで来るようになりました。また、コロナで一斉休校になったときは、平日の昼間に毎日のように一緒に過ごしていました。そこでも、元気の有り余っている彼らの雰囲気、また、そうかと思えば、のんびりと本を読んでいる姿を見せてくれました。

そして、いま、わっかの開いている時間に来ることはほとんどありませんが、下校中に歩きながら、足をとめることなく、それでも「だいのすけー」と大きな声で叫んでくれます。「はーい」と返事をして、そのまま歩いて行きます。

それでも、ほとんど毎日のように声をかけてくれる、しかも、あだ名で呼んでくれるのは、とっても嬉しくって下校時間になると下校の道を眺めています。

(だいのすけ)



毎週 金曜日 17:30 ~ 19:00

子ども 16名 おとな 4名

## かめラボ

子どもたちの「〇〇したい」にできる限り全力で応える場。ある少年は「教員の人事異動を予想するプログラムをつくりたい」と言いました。いまは、姫路城が好きな少年が、マインクラフトで姫路城を作成するのを応援しています。



ときどき 日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども **6** 名 おとな **3** 名

## 日ようわっか

月に1回程度、お昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年まで、親子連れが中心です。親子できていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるということもあります。



## 11月に頂いたご寄付

### 物品でのご寄付 **9**名(団体)

- ・ レトルト食品、カップラーメン、ミニトマトなど (Uさん)
  - ・ お菓子の詰め合わせ (Sさん)
  - ・ 鬼滅の刃の本 (Nさん)
  - ・ 白菜 (Hさん)
  - ・ 文房具
  - ・ お米・服
- (米原市社会福祉協議会さまを通じて)



### マンスリーサポーター **25**名

大溪麻紀子、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀、佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代、三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、鈴木愛子、荒巻りか、吉田尚子、永峰美佳  
(敬称略)

### 都度ご寄付 **1**名 わっかの募金箱にご寄付いただきました。

5000円(居場所づくりサミットの参加費に上乗せして)

### 助成・補助団体、企業 **13**団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、  
社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団  
一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団  
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ  
いっぽまえクラブ、タノシニア合同会社、マコトヤ (敬称略 2020.12.10 現在)

## 11月のその他

---

視察 **3** 名

広島から 1名

滋賀県内自治体職員さま 2名

ラジオ出演 **20** 日

地元のエフエムひこねの「ちかく de と〜くで SDGs!」に出演。

<https://drive.google.com/file/d/1YEPzYsm-xWcaZwka7WIUjSBZN1unMa-X/view?usp=sharing>



当日の収録内容は、URL コードを読み取っていただくと聞いていただけます。





## 編集後記

今年さいごの、月次報告です。みなさまにお届けできること、とってもうれしいです。いろいろ、ほんとにいろいろありましたが、報告書をご覧いただくときは、願わくば、ほっとできる、そんな紙面になればと思って作成しています。

だからといって、どう感じながら読んでくださっても、構いません。古民家を開けているときと同じで、ほっとして過ごしてほしいなと思いつつも、こうやって一緒に過ごしていることで十分じゃないかと感じさせてもらっています。ですから、これを読んでくださっているみなさんが、これ在今よんでくださっていることで、十分に嬉しいです。できれば、みなさんが、ほっとして読んでくださっていることを願いながら。

次回は新年にお届けします。みなさんにとって来年がみなさんの望むものになることを祈っています。

(だいのすけ)

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	<a href="https://npo-wacca.org">https://npo-wacca.org</a>
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca
Youtube	アカウント名 NPO 法人わっか振角大祐